

第 71 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第七一回 2014 年 9 月 20 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 井端、大野、小林、高市、夏目、宮川、山本、渡邊 (8 名)

1. テーマ : 再生企業の分析—株式会社リソー教育の場合—

- ・ 報告者 : 宮川宏 ・ 配付資料 : 16 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社リソー教育 (以下、リソー教育とする) の収益性分析を行い、企業の内部環境の問題を検討し、再生のための課題を考察した。収益性分析に関して、ROA を構成する M と T を分析した。連結における訂正前財務情報から、M の値は 7.6~18.2 と高い水準で推移している。これは、製造業のように多くの設備・材料などを保有するのではなく、サービス提供をおこなっているため、高いマージンを獲得できていると推察した。T の値は 1 以上の値を維持しており、資産の利用効率は良い傾向にあるといえる。しかし、訂正後財務情報を用いて同様の分析を行ったところ、実際には ROA は低く、マージンを獲得出来ていないことを分析した。次に、粉飾と内部環境に関して、リソー教育の粉飾は、売上過大計上、引当金未計上という負債過小評価によるものであると指摘した。売上高を中心とする粉飾は、経営者の過度な売上目標の達成を要求したことが原因の一つと考えられる。そのため、企業のガバナンス、内部統制が機能不全であったことを考察した。また、売上の粉飾に至る経緯に関して、営業と管理業務との統制がとれず、内部の管理システムに不備があったのではないかという議論が生じた。

今後の企業再生に向けては、従来の教室拡大成長の経営のみではなく、コンプライアンスとガバナンス意識の徹底がより重要であると指摘した。加えて、幼児教育をはじめとする子供の成長過程を全体的に支援するような総合的サービスを行うことで、継続的な事業成長が可能であると考察した。

2. テーマ : 重回帰分析による株式会社ユニコ・コーポレーション割賦売掛金分析

- ・ 報告者 : 井端和男 ・ 配付資料 : 5 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社ユニコ・コーポレーション (以下、ユニコとする) の割賦売掛金について重回帰分析を行い、n 年度における割賦売掛金残高を推定した。ユニコでは売掛金を約 5 年で回収していると仮定し、説明変数である売上高を 5 年分組み込んだ回帰モデルを立てた。回帰モデルに実際のデータを入れたところ、推定された割賦売掛金残高と実際のデータとの間に誤差が生じていた。誤差が生じた理由は、年次データではデータ数が少なすぎ、分析ができない問題点をあげた。そこで、n 年度における割賦売掛金の残存率を理論的に推定した重回帰理論モデルを作成した。モデルを作成したが、この理論的モデルでも推定される値と実際残高にも差異が生じた。理論的考察と合わせ、生じた差異が不良債権の残高を示していると推測した。また、月次資料による売上債権分析を行った。データ数を増やしても信頼できる値が出ない場合には、企業のデータが正常ではない可能性を示していると考察した。

3. 今後の予定について

- ・ 10 月 4 日 (土) 分析企業—株式会社クリムゾン— 尼野先生
- ・ 11 月 22 日 (土) 分析企業—株式会社イチケン— 浜田先生
- ・ 12 月 6 日 (土) 分析企業—椿本興業株式会社— 小林先生

(文責 : 夏目拓哉)